

第1回 リスナー参加型 天下一学問会

高校レベル

講評

地理

作問者：いーんちょ

問題数：大問1問

記述式

解答時間：45分

高校地理・講評

採点結果

選択者： 6名（金：2名、銀：2名、銅：2名）

平均点： 66.5点

最高点： 83点

全体コメント

記述問題が多かったため、そこでの評価が最高点に響いたものと思われる。しかしながら全体的に高得点であった。残念な点は、記述問題において文字数の短い答案が多かったところである。

個別問題

- 問1. (ア) 全員正解であった。肥料の三要素の知識はなくても、その後の誘導から導けるようにした。(イ) 正答率は非常に高かった。焼畑農業という単語はどこかで学習した記憶があったからであろう。(ウ) 正答率は低めであった。越境型の環境問題であるが、「地球温暖化」の回答が多かった。これを完全に否定することはできないものの、焼畑が温暖化に寄与する影響はほぼないだけでなく、煙による太陽光の遮断は短期的な寒冷化をもたらすともいえる。したがって部分点も低めに設定している。(エ) 正答率は非常に高かった。これもどこかで学習した/聞いた単語であろう。(オ) 正答率はほぼ50%であった。食料の大量増産を達成した「緑の革命」は、どうしても知識問題になってしまう。(カ) 全員正解であった。最近では赤潮の話題について聞く機会は減ってきているが、それでも環境問題の一つとして意識されていることがよく分かった。
- 問2. 正答率はやや低めであった。解説でも記載したが、ここでは「国産」の存在がキーとなっている。回答では不正解の選択肢である(3)が多かった。
- 問3. 正答率は高めであった。人件費の安さが輸入コストよりも有利に働くという基本的な構造が押さえられていたように思う。
- 問4. 得点率は高めであった。(B)の現象名では「サイクロン」がいくつか見られた。サイクロンはインド洋で発生する熱帯低気圧であることや、赤道付近

ではこのような熱帯低気圧は（コリオリ力が働かないことで）発生しないため、熱帯地域特有とは言いがたい。(C) について、残った灰が酸性土壌に対して中和する役割を持つ点は指摘されていたが、灰そのものが肥料にもなる点まで言及したものはなかった。これは前者を強調するような問題誘導になったことも要因として考えられるため、改善点としたい。

問5. 得点率はやや低めであった。様々な要因の回答を得たが、「高額な肥料」と「労働にかかるコスト」の両方の観点から記述されたものはなかった。また「伝統的な焼畑農業を遊牧民族が続けていて支援が届かない」といった回答もあったが、遊牧民族に限らず東南アジア（マレーシアなど）では焼畑が現在も行われており、この回答は局所的と言える。

問6. 正答率は非常に高かった。赤潮は瀬戸内海で起こりやすいイメージが現在も残っているためであろうか。

問7. 全員正解であった。問題文中にほぼ答えは書かれているが、そこを要約しさらに付加要素を付けられるかを問うたが、十分な回答が書かれていた。